

理事寄稿

JACTFL、未来に向けて JACTFL, toward the future

大森 洋子 OMORI Hiroko¹

筆者が、JACTFLに関わったのは、設立の頃のシンポジウムに参加、一方でスペイン語の外国語研究会 GIDE のプロジェクト「スペイン語学習のめやす 日本における第二外国語としてのスペイン語教育」(Modelo de contenidos para un modelo de actuación: Enseñar español como segunda lengua extranjera en Japón)の作成の段階で、當作靖彦先生にコメントをお願いして研究集会を開いたことがきっかけだったかと思う。その後、當作先生が JACTFL にはスペイン語を専門とする先生がいないので、加わりませんか、というお誘いがあったのが始まりだった。その後山崎先生ともお話しして、複言語研究会にも参加し、勉強する機会をいただいた。

そのような経緯から、スペイン語以外の外国語の教員、さらには高校での英語以外の外国語の教員との交流を通して、さまざまな活動があることを知るいいきっかけとなった。特に、今回は二つのことを取り上げ、今後の活動へ繋がっていけばと考えている。

一つ目は、さまざまな外国語の状況を知るととてもいい機会になったということである。それぞれの外国語において独自に教員養成のための活発な活動、研究会などが行われていることを知り、これらの交流の大切さを学んだと言える。

現在、英語以外の外国語教職事情はとても心許ない印象を持っている。ほとんどの大学で、英語の教職と一緒に取得することがほぼ条件になっている。当該言語(英語以外)の教員免許状だけでは常勤としての職に就くことが難しく、教職課程を履修すると負担が増えるという印象を持つからであろう。それでもそれぞれの言語の教員免許状をとることの大切さを色々な方法でアピールしていく必要があると考えている。

その方策の一つとして、教員や教職志望の学生たちの交流の場、さまざまな言語の学習者—学生たちが、交流し情報交換の場を作ったり、彼らが考えるさまざまなプロジェクトなどを支援したりすることなどで、JACTFL が協力できるのではないだろうか。

¹ 所属: 明治学院大学 Meiji Gakuin University

これらを通して、それぞれの外国語教員養成が活発になり、より良い教員を送り出すことにつながるのではないかと考えている。複言語能力の育成の大切さを知り、当該言語＋英語＋アルファの力をつけた教員、言語の多様性を理解してそれを教育の中で実践していける教員養成を実践できるのではないだろうか。

二つ目は、中学校、高等学校で、英語以外の外国語を学んだ若い人たちが育っていることに感動したことである。英語第一とする状況の中で、果敢に他の言語を学んで、素晴らしい成果を上げていることを知ったのは、オンラインシンポジウムで、若い人たちの活動を取り上げたからだった。彼ら彼女らの堂々とした発表姿勢はもちろんのこと、とりわけその内容に感動した。一つの視点にとらわれないことで、本当に大切なことを学んだということに驚かされた。

このような活動を応援することも JACTFL の大切な仕事なのかもしれない。なかなか英語以外の外国語に触れる機会のない中学生、高校生もいるなか彼らを中心に企画が JACTFL の支援のもとに生まれたり素晴らしいのではないだろうか。今までのこの活動をもう少し広げて、中学生、高校生、大学生との交流をサポートするような企画が生まれることを願いたい。

さまざまな言語の交流と世代、立場を超えた複言語活動が活発になることを願い、今後も JACTFL の活動に微力ながら何らかの形でお手伝いできればと願っている。